

# まつかわ森の妖精「きっき」現る!?

年長さんが夏祭りで踊る盆踊りの練習を終えて教室に戻ると、まつかわ森の妖精「きっき」から、子どもたちに手紙が届いていました。



子どもたちは、「きっき」から手紙が来た、それだけで大興奮状態。

「まつかわの森って、あそこだよな？」

と言って、金谷川小の北側の森を指さす子。壁面掲示を指さして、

「あの子が、きっきなんじゃない？」

と自慢げに話す子。子どもたち一人一人の心の中に、自分の「きっき」ができあがってきます。

そして、友だちの印として「四つ葉のクローバー」のストラップをもらいました。さっそく自分の通園バックにつけて、

「見て見て。きっきにももらったんだよ。」

と言って、年少さんに見せていました。

これで、子どもたちと妖精「きっき」は、心がかちりと結びつきました。

遊戯室からまつかわ森に向かって、

「ありがとう！遊びに来てね！」

「また森に会いに行くね！」

と、遠くにいる「きっき」に呼びかけていました。すると、

「あっ、何か白いのが見えた。」

「きっきのこえが、聞こえたよね。」

「お返事書こうね。」

と、もう「きっき」と心が通じ合っていました。

これから折に触れて、まつかわ森の妖精「きっき」との交流が始まります。どのように発展するか、楽しみです。

